



脱原発の請願11月議会へ

紹介議員 無所属クラブ

福島第一原発の事故後の対策も完了せず、事故原因すら不明確のままですが、全国では原発再稼働の動きが激しさを増しています。「電力不足」の「神話」は「稼働原発ゼロ」で「電力不足の嘘」を国民の目の前にさらされ、国も電力会社も稼働の大きな根拠を失っています。しかし、「原発事故は起きないとの神話」への何の反省もせず、避難計画も不十分なまま「再稼働」は数を増そうとしています。岐阜市議会11月議会へ岐阜市民の別処雅樹さんから、浜岡原発や「もんじゅ」に反対するなど「脱原発」請願が出されました。無所属クラブは紹介議員として、11月議会に臨みます。

「脱原発を実現し、自然エネルギー中心の社会実現の意見書採択を求める請願」

東京電力福島第一原子力発電所での連続爆発、炉心溶融（メルトダウン）事故によって、海も大気も大地も汚染され、これから被曝者が大量に出ることも予想されます。

いまの子どもたちばかりか、まだ生まれていない子どもたちにも、計り知れない悪影響を与えるとの不安に駆られています。父も母もきょうだいも、幼い子たちを、どこへ避難させるべきか悩んでいます。

わたしたちは未来の命のために、自然を傷付け、エネルギーを浪費する生活を見直し、あらゆる生物と共存する「持続可能な平和な社会」を希求します。

まず、原発廃止に向け政治のカジを切り、核エネルギー政策からの大転換を強く訴えます。下記のことを要請し意見書採択を求める請願といたします。

記

- 1 原子力発電所の新規計画を中止し、浜岡をはじめとした、既存の原子力発電所の計画的な廃炉を実施することを求めます。
- 2 もっとも危険なプルトニウムを利用する、高速増殖炉「もんじゅ」および核燃料再処理工場を運転せず、廃棄することを求めます。
- 3 省エネルギー・自然エネルギーを中心に据えた、エネルギー政策への転換を早急に始めることを求めます。

さよなら原発

四国の原発が事故になったとき、瀬戸内海の汚染はどうなるのか？ 原発近隣の半島住人の避難は、九州を想定されているようです。しかし、津波の被害は九州にも及びであろうことは、専門家でなくとも十分予測できます。計画の危うさが窺えます。

自民党ですら「もんじゅ」の問題は、安全性は勿論、維持費、財政面での問題を言い始めました。中日新聞は11月19日の社説で、「原子力は高くつく」「原発ゼロへ再考を」と論じています。「もんじゅ」など核燃サイクルには12兆円以上が投じられました。撤回の国立競技場2520億円、国産ジェットMRJ開発費1800億円、「はやぶさ2」290億円。12兆円は、フィンランド国家予算なみ。

「もんじゅ」の冷却に使用するナトリウムは、固まらないように電熱で常時温める必要があり、1700tのナトリウムに一般家庭25000世帯分の電気月1億円消費されていると報道されています。20年間ほとんど稼動しないのに、1日5500万円の維持費。発電しない原発が月1億円の電気を消費している矛盾。

「さよなら原発」1千万人署名の呼びかけ人は、大江健三郎、坂本龍一、澤地久枝、瀬戸内寂聴、内橋克人、鎌田慧、などの各氏です。この署名要旨と岐阜市民からの請願「脱原発を実現し、自然エネルギー中心の社会実現の意見書採択を求める請願」要旨は同じです。



松原のりかず
☎058-253-2500